

# Manna&Babyこどもクリニック通信

福岡市城南区長尾4丁目  
6-17  
TEL 092-866-8800  
http://  
mannaandbaby.or.jp/  
アイチケット順番とり  
http://paa.jp/t/188601/

第18号  
平成23年4月



東日本大震災で被災された皆様へ、心よりお見舞いを申し上げます。

3月11日未曾有の大地震、大津波、原発問題と日本人はこれまでに経験したことのない大きな苦痛と苦悩を経験しました。そんな中、世界中の方々からの様々な援助の話を聞きますと、涙が溢れてきました。人のぬくもりのある行動にこれほど心を打たれたことはありません。あることが当たり前ではなく、日々感謝して生きなければと考えさせられたものです。私共でできることを精一杯していきたいと思っております。当クリニックでも東北・関東からの帰郷の患者さんもいらっしゃいました。どうかお元気でと祈る思いでした。日本人の持つ芯の強さと、儒教の教えからくる人間性のすばらしさと知恵で必ずやこの悲劇から一日でも早く復興できるように協力していきましょう。



## 今年のインフルエンザの報告とワクチン接種

今年のインフルエンザの流行の主流は、去年から1月までA型(新型)、2月がA型(季節性)、3月がB型、4月に入ってA型に戻っています。去年は、秋に新型のみが流行ったのと違い。今年は冬に3タイプすべて流行しました。ただ、例年になく2回感染した人が目立ちました。また、ワクチン接種にかかわらず感染する場合がありますが、日本の場合は、リスクの少ない不活化ワクチンといわれるタイプを採用しています、感染をブロックすることより脳炎や肺炎など重症化を予防するのが目的です。そのため、インフルエンザによる死亡率が高くなる65歳以上は、定期接種になっています。



## ヒブ、肺炎球菌ワクチンの再開

当院では予約制で、4月11日より接種開始となりました。

ヒブ、肺炎球菌ワクチンについて、3月5日より中断していましたが、3月24日にとりまとめられた厚生労働省の「小児用肺炎球菌ワクチン、ヒブワクチンの安全性の評価結果について」を踏まえ、4月1日より接種が再開になりました。日本のワクチン状況は、海外より20年遅れています。ワクチンで予防できる病気で死亡する子供が日本でも減ることが望まれます。



## 子宮頸がんワクチン

子宮頸がんワクチンは、公費開始になり接種希望者が多く、供給がストップしていますので、再開になれば、お知らせいたします。対象は福岡県内の中1から高2の女子です。



## 生後3か月未満の呼吸不全

最近、生後3か月未満の呼吸不全で入院に至る患者さんが増えています。風邪様の症状から始まって短期間で呼吸機能が悪化する感染です。そんなときは、お父さんお母さんは、心配でしょうが、落ち着いて対応してください。いつもと異なる呼吸をしていたり、苦しそうな表情があれば、すぐに受診をしてください。また、休日および、平日の夜の7時半から朝の6時半まで、福岡市急患センターの小児科医が対応してくれます。 TEL:092-847-1099 福岡市早良区百道浜1-6-9



## 「食」の大切さ (3月号に続きまして…)

内田先生は、著書『ここ ～食卓から始まる生教育～』にて、「性教育は生教育です。生を大切にすれば食が大切になります。「性」と「生」と「食」はつながっていたのです。」と述べられています。そして、講演会のなかで、一人暮らしの学生の2～3日間の食事風景のスライドを見させていただきました。A君→朝食は抜き。昼食、夕食ともにラーメン。B君→朝食は抜き。昼食は2日間とも学食で定食。夕食はコンビニ弁当かラーメン。内田先生いわく、「定食を食べたくなる子は、小さい頃から、ご飯と一汁一菜を食べていたのだと思います。家を離れ、ふとした拍子に思い出すのはお母さんの味噌汁や炊きたてのご飯です。」と。Cさん→朝食は抜き。1日は昼食も抜き。おそらくダイエットをしているのかもしれませんが、パンやうどんが主で、野菜ジュース。間食にお菓子、食べた1～2時間後に海藻わかめ、最後にアイスクリーム。内田先生いわく、「おそらく、痩せてはいないし、便秘に生理痛がひどいと思います。」D君→1枚のスライドに3日分の食事が写されていました。カロリーメイトが縦横に3×3並んでいたのです。笑も起こりましたが、驚いたのと、なんとも悲しい気持ちになりました。現実にこのような食生活をしている学生がいるのです。



ある方が話していました。高校生の時、友達が弁当を作っていてすごいと思い、母親に料理を教えてほしいとお願いしたそうです。その当時そのお母さんは「いつかお嫁にいったらイヤというほど料理をしなくてはいけなから、今はしなくていいよ。」と話されたそうです。そのまま料理することはせず結婚。そこから料理を始めたそうです。姑さんに驚かれ、その事を自分の母親に話すと、「私が教えなかったもんね。ごめんね」と言われたそうです。

一人暮らしを始めれば、家事の力は自然と身につく、と考えている方が多いようにも思われます。昔は自分でなんとかしないと生活できなかったもので、家事の力も身についたのかもしれませんが、今は、お金を払えばコンビニなどで、容易に手に入る時代になりました。いまや、家事の力は自然と身につくものではないのです。だから一つ一つ、教えて学ばせていかなければ、身につかないものなのです。内田先生は「私たち(親)は子どもより先に、子どもをこの世に残して逝かなければなりません。「子どもが一人で生きていくことができる」ように育てあげることが大切とおっしゃっています。又、家事に限ったことではなく、遊びでも勉強でも子どもが自分で考え、自分で決めて人生を歩いていけるように、サポートしていくことだと思います。上手いくこともあれば、途中でつまづいたり立ち止まることもあるかもしれませんが、でも全て解決を親がしてしまわないでください。上手いと思ったらほめてあげ、つまづいたら、「がんばったね」と「また頑張ろうか」と手は出さず、見守ってあげてください。子どもたちは、自分で立ち上がって前に進んで、歩いて行ける力をちゃんともっています。家事も料理もできるんです。ただ、何をするのも、一番初めはわかりません。まずは方法を教えてあげてください。そのあと、何度も、何度も体験していくことで身につけていきます。



一人でも多くの方が、食を大切に、生きていくことを私も願ってやみません。みんな愛し、愛される子になりますように！

